

「心を潤す4つの言葉」と「社会で役立つ5つの魔法」

校長 八木澤 龍馬

「おはようございます」、「ありがとうございます」、「ごめんなさい」、「はい」、これらは、さいたま市教育委員会が推進する、「心を潤す4つの言葉」です。「おはようございます」の「あいさつ運動」は、学校、家庭、地域の連携行事として定着しました。学校では、子どもたちの元気な「おはようございます」、「はい」、「ありがとうございます」が、一日中、教室、図書館、グラウンドなどから聞こえてきます。

1月15日から3日間、大谷口中学校から「未来くるワーク」の中学生5名が、本校にも職場体験に来てくれました。皆さん礼儀正しく、「おはようございます」や「はい」がしっかりできました。1年生の教室での授業のサポートや校外学習（こうえんたんけん）の引率など、熱心に活動し、子どもたちと積極的に関わってくれました。1年生も、中学生のお兄さん、お姉さんたちと話したり、遊んだりして、とてもうれしそうでした。

中学生には、3日間の活動で印象に残ったことを書いてもらいました。「一人ひとり個性的なので、様々な対応をしなくてはならないこと」、「公園探検では、児童の安全と自分の安全を守らなければならなかったこと」、「一度通った道を、先生側の立場で経験できたこと」などと述べてくれました。立派な内容で、自分の気持ちをきちんと言葉にできていることに、とても感心しました。終わりの言葉を、異口同音に「ありがとうございました」と結び、5名は中学校へ帰っていきました。

中学校で「職場体験学習」が実施されるようになって、20年以上経ちました。当時、体験に行く生徒たちに、職場での態度について、次のような話をしました。

「社会に出て役に立つ5つの言葉があります。人と人との信頼を深める魔法の言葉です。朝、職場についたら『おはようございます』、物事を頼むときには『お願いします』、呼ばれたとき、頼まれたときは『はい』、いつも感謝の気持ちを忘れず『ありがとうございます』、失敗したらすなおに『すみません。』この5つの言葉を、使えるようにがんばろう。」

5つの言葉は、学生の頃、電気工事のアルバイト先で、監督から教わったものですが、人として大切にしたい言葉は、時と場所が異なっても変わらないものなのですね。これからも「心を潤す4つの言葉」が、ますます威力のある、魔法の言葉になるように努めていきたいと思います。

降雪量の多かった23日朝、校庭では場所によっては、雪が30cmぐらい積もりました。子どもたちの歓声が響き、みんな、雪の感触を大いに楽しんでいました。午後、子どもたちが下校する頃、通学路やバス通りの歩道では、ほとんどの場所が除雪されていました。ご近所の方々がお仕事なさったのでしょうか。

4つの言葉のうち、最もたくさん使うのは、「ありがこうございます」ですね。